

府中市史編さんだより

第12号 令和4年(2022)12月1日



『新府中市史 近現代資料編下』を刊行

このたび、『新府中市史 近現代資料編下』を刊行しました。

明治維新时期から昭和戦前期までの資料を収めた上巻(平成31年〔2019〕3月刊行)、昭和戦中期から主に高度経済成長期までの資料を収めた中巻(令和3年〔2021〕3月刊行)に続き、下巻では戦後の昭和20年代から令和の現在までの資料を収録しています。今回の下巻の刊行により、近現代の時代の資料編は全巻そろうことになりました。

下巻では、戦後の混乱期から高度成長を経て現在に至るまでの、約70年の間の時期を扱っています。古代国府の時代から約1,300年以上という歴史の長さのなかでは、ほんのわずかな期間に見えてしまうかもしれません。しかし、この間にも私たちをとりまく生活環境や、人々の生き方、繋がり方など、様々な面で現代社会に直結する急激な変化やそれにともなう課題が生じ続けてきました。

こうした変化や課題に対して、その時その時の市民がどのように向き合っていたのか。町村合併により新たに誕生した本市が直面した生活

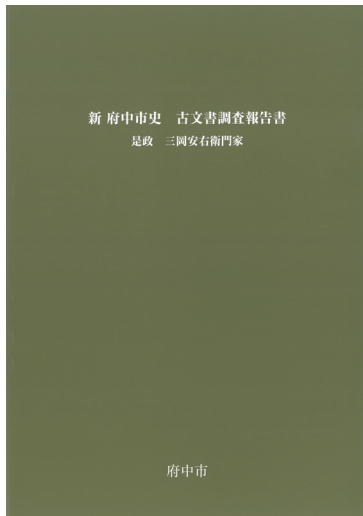
環境の改善、郷土の歴史や文化への関心の高まりなどにかかわる豊富な資料からは、その様子をうかがい知ることができます。

表紙カバーには、『武蔵府中郷土かるた』の絵札と桃太郎の絵を掲載しています。郷土かるたは、府中市の歴史や文化、自然を市民に知っていただくために作成され、読み札の文言は一般に募集されました。絵札を描いたのは、『スーホの白い馬』や『かさじぞう』などで有名な、府中市にゆかりのある絵本作家の赤羽末吉画伯です。資料からは、郷土かるたの絵札の作成には実質1年もかかっていないことがわかります。それにもかかわらず、46枚もの絵札を描くことが出来たのは、赤羽画伯が市民や府中という地域との繋がりが深かったからでしょう。表紙の桃太郎の絵は、交流のあった市民のこどもへの誕生日祝いとして描かれ、贈られたものです。この絵からも赤羽画伯と市民との絆の深さがうかがえます。

A4判 647頁 価格2000円

『新府中市史』新刊紹介

新府中市史 古文書調査報告書
是政 三岡安右衛門家



新府中市史研究 武蔵府中を考える 第4号



旧是政村の三岡安右衛門家に伝来した古文書の調査報告書を刊行しました。三岡安右衛門家文書は、一度散逸したものの、近年成城大学図書館に所蔵されていることがわかり、本市の市史編さん担当に一括で寄託されることとなりました。近世専門部会では、こうした貴重な文書群の専門的な調査をおこない、その成果を報告書としてまとめました。

三岡安右衛門家は、代々是政村の名主を務めた家柄でした。本書では、文書群の概要や目録とともに、古文書からわかる江戸時代の是政村の様子や^{とらえかいは}掟飼場や用水、多摩川とのかかわりなどについても解説しています。史料紹介では、文政6年（1823）に安右衛門と八幡宿百姓助次郎との間で訴訟となった水車一件に関する史料を取り上げています。また『新府中市史研究』第4号では、種村威史協力員が秣場騒動に関する史料を紹介していますので、ぜひあわせてご覧ください。

A4判 119頁 価格500円

市史編さん事業に関わる調査成果や、各種講演会の記録を広く公開する目的で創刊された『新府中市史研究 武蔵府中を考える』の第4号となります。

本号では、府中の歴史をテーマに以下の論文や報告を掲載しました。

森 公章「武蔵国入間郡家と神火事件—宝亀三年太政官符の釈読—」

松本 三喜夫「武蔵府中郷土かるた」と赤羽末吉、「色川大吉と「府中市史」

久下沼 譲「押立金井家文書所収の戦国大名北条氏関連文書について」

種村 威史「正徳五年の府中領秣場騒動—是政村三岡安右衛門家文書を素材として—」

小林 謙一編「市内縄紋・弥生時代遺跡の研究—（本宿町遺跡・清水が丘遺跡・武蔵国府関連遺跡東京競馬場地区）—」

英 太郎「府中市白糸台で発見された旧陸軍百式司令部偵察機の尾翼部品」

A4判 117頁 価格500円

市史編さんの刊行物は、ふるさと府中歴史館3階市史編さん担当で頒布しています（平日のみ）。

他に、府中市郷土の森博物館

市民相談室（府中市役所1階）

市政情報センター（ル・シーニュ5階）

観光情報センター（大國魂神社交番横）

でも購入可能です。通信販売もおこなっていますが、送料は刊行物の種類と冊数で変動いたしますので、巻末の電話・電子メールで事前にお問合せください。

専門部会の活動紹介

—考古・美術工芸専門部会 彫刻作品の調査・撮影の様子—

府中市史編さん事業では、7分野の専門部会（原始・古代、中世、近世、近現代、自然、民俗、考古・美術工芸）に所属する専門委員が調査と情報収集をおこない、その成果を『新 府中市史』として順次刊行しています。

その専門部会のひとつ、考古・美術工芸専門部会は、府中市に伝わる考古資料、美術工芸品を調査、研究して、その成果を『新 府中市史』に紹介し、市民の方々に府中の歴史に親しみをもち、理解を深めていただくきっかけになることを目的として活動しています。

ここでは『新 府中市史』に紹介するための彫刻作品の調査と撮影についてご紹介します。

この部会で対象としている彫刻作品とは、寺院や神社に伝わる仏像、神像のことです。仏像、神像は信仰の対象であることはもちろんですが、歴史を伝える文化財としても貴重です。市史編さん担当ではご所蔵者である市内の寺院、神社に特別に許可をいただき、調査と撮影をおこなっています。

1 調査、撮影のための道具

調査では、作品の情報を記すための調書をとります。クリップボードにはさんだ調査用紙に項目順に記述し、懐中電灯を使って明るく照らして観察します。大きさを測る時には折れ尺とメジャーを使いますが、小さな作品の時は電子ノギスで測ると作業がしやすくなります。

表面の彩色仕上げなど細かいところを見るときにはルーペを用いて注意深く確認します。仏像に横になっていただいで観察する時には綿を薄葉紙で包んで作ったお布団や柔らかい布を敷いて、損傷ないように注意します。

時々、仏像には本体の内部や、光背、台座の裏などに墨で文字が書かれていることがあります。その文字がはっきりと見えれば良いのですが、長い年月の間に墨が薄くなってしまいうことも少なくありません。そんな時には、赤外線機能を持ったカメラで撮影すると、肉眼で見るとよりも文字がはっきり見えることがあります。

また、作品の体内の奥の方に書かれていて肉

眼ではよく見えず、カメラも中に入らない、そんな時には歯科医が使う柄のついた小さい鏡やファイバースコープを用いて書かれている文字を確認します。

撮影をする時には作品の背景に使うバック紙や布、ライトとそれを立てるためのスタンド、三脚、カメラなどが必要です。



調査道具の一部

2 調書をとる

大きさ、形状、構造及び保存状態を記録します。大きさは頭のてっぺんから足元までの像高、額の生え際から足元までの髪際高、光背の高さ、台座の高さなどを測ります。

形状は髪型、衣装、手の形及び持ち物などを記します。形は尊像ごとに基本的な形式が決まっています。たとえば如来像の髪は、1本ずつがらせん状に丸まった螺髪であることがルールになっています。そのあらし方には螺髪ひとつひとつに渦巻を造る、粒状に造るまたは縄状にあらしすなどいくつかの方法があり、そういうことも記録します。

仏像にあらしわされた衣装についても、詳しいことを記録します。菩薩像や明王像は上半身に条帛という幅の狭い布を左肩から斜めにかけてますが、そのかけ方と布の端の垂らし方にも色々なパターンがあります。下半身に着けた裙という巻きスカート状の布についても、正面で右前に着ける、右足の前で右前に着けるなど作品によって異なりますので、それも記録します。



調査の様子

16体の羅漢像を調査した時の様子です。基本的な形状は同じですが、姿勢や持ち物がそれぞれ違うので確認します。また、背中に銘文があるので1体ずつ記録していきます。(高安寺)

衣装には、衣のひだや布の折り返し方、たるませ方など様々に表現されていて、その表現には仏像を制作した仏師たちの主張、こだわりが感じられます。

構造は木、銅、鉄など、材質は何か、どのような技法で造られているのかを詳しく見ていきます。府中市に限らず日本の仏像は木で造られたものが多いのですが、1本の木で造る一木造、1本の木を割って造る割矧ぎ造、何本かの木を組み合わせて造る寄木造に大別できます。これらのことは実際に手にとって十分に観察することで初めてわかります。一木造や割矧ぎ造は作品の大きさと同じ太さの材木が必要ですが、寄木造は何本かの材木を合わせて造るために、細い材木で造れますから、大きさに制限がなく、また経済的にも効率良く制作することができます。仏師たちの創意工夫のひとつですね。

座っている仏像の場合には仰向けになっていたと底から木の組み方が見えて構造がよくわかります。木彫像では内部を彫って内刳りと呼ぶ空洞を造ることがあります。こうすることで仏像が軽くなって運びやすくなるとともに、干割れも起こりにくくなります。これも仏師たちの知恵のひとつでしょう。

なかには仏像の内部に仏舍利、文書などの納入品が納められていることがあります。仏像の体内を神聖な場所として納められたものですが、そこには造立の年月日や作者の名、また、制作に携わった人たちの思いがわかることもあります。さらに珍しいものとして、体内を金箔仕上げとした仏像も、府中市に現存しています。

保存状態を記録する時には、最初に造られた箇所、後から補われた箇所を見極める必要があります。木彫像の場合はおおよそ100年から150年毎に修理、修復のお手入れをされて今に伝わっていることが多いのです。

最も大切なのは、虫やカビなどの被害にあっていないかどうかの確認です。虫は知らない間に木を食べてしまい、見た目に変化がなくても中がスカスカになってしまうこともあるので注意が必要です。また、表面の彩色が剥がれていることなど、その時の作品の状態を記録します。

3 いよいよ撮影

撮影はとても大変です。撮影する時には、室内のなるべく外の光の影響が少ない場所を選びます。撮影用のライトを使って光を調節しながら撮影するためです。

場所を決めたら背景に使うバック紙やその代わりになる白い布を張ります。

撮影するカットは基本的には全身の正面、左右側面、斜め、像底及び顔です。

ライトの当て方が撮影の最難関です。作品の大きさと姿勢から、高さ・奥行き・幅などの立体感、顔や衣の凹凸などを考えてライトの位置を決めますが、背景に影ができないようにすることにも工夫が必要です。

ひとつひとつの作品の特徴・特色、魅力を理解し、それを表現するためには知識と技術が求められます。



撮影の様子①

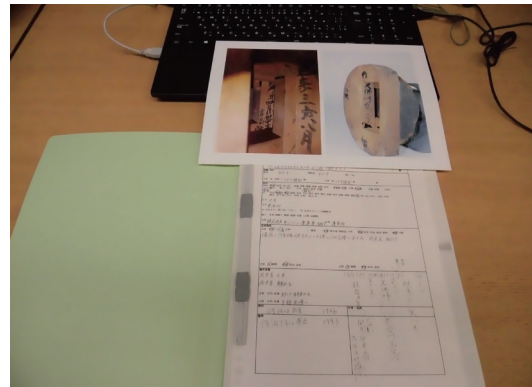
背景に白い布を張って撮影場所を作ります。ライトで光を微調整しながら撮影しています。(長福寺)

専門家に調査していただくのは作品が造られた時代や作者を特定するためだけではなく、この部会の彫刻分野の担当である副島弘道委員は今回の市史編さん事業における調査を「仏像の健康診断」と呼び、医師（専門家）に診察してもらう良い機会と捉えていただきたいと話しています。市内の寺社には平安時代、鎌倉時代、江戸時代とそれぞれの時代に造られた作品が現在まで何百年もの長きにわたって伝わっています。それはきっと先人たちが仏像の「健康診断」をおこない、時と場合によっては修理、修復して後世に仏像を伝える努力をしてくださったおかげでしょう。



撮影の様子②

大きい仏像の時はブーム付きの大型ライトスタンドを使います。(善明寺)



整理作業の様子

予期していなかった新型コロナウイルスの世界規模の感染拡大により、調査は思うように進められていませんが、刊行へ向けて努力してまいりますので、市民の皆様には引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

4 帰ってきたら

現地での調査、撮影が終わった後は、調書の整理、撮影した画像の整理をおこないます。

リストの入力、画像フォルダ、ファイルに名前、番号をつけて将来にわたって管理できるように整えます。

部 会 通 信 (令和4年1月～令和4年6月)

原始・古代専門部会

今年度は、『新府中市史 原始・古代 通史編』刊行に向けて、計3回の専門部会を開催しました。そこで、具体的な原稿や作図の進捗状況や、今後の刊行計画などの打合せをしました。

文献部会では、コロナ禍の中で、十分間隔をあけ、対面形式で部会を開いたのですが、掲載の体裁など細かな内容を検討することができ、有意義な部会となりました。

考古部会では、小林謙一委員が、海外へ8月まで出張され不在であった関係で、海外からのリモートでタイムラグのない形で参加していただき、文献部会とほぼ同じ内容の話し合いができました。

中世専門部会

中世部会では、令和5年3月の刊行を目指して、引き続き『新 府中市史 中世 通史編』の編集作業を進めています。令和4年1月から6月にかけて、計3回の部会を開催し、委員にご執筆いただいた原稿を基に、内容について具体的に検討するとともに、掲載する図版の選定・準備などの作業を行っています。

また、「通史編」には、「資料編」本編では収録に至らなかった資料を、「資料編補遺」として掲載する予定となっており、こちらについても編集作業を進めています。

近世専門部会

『新 府中市史 近世 資料編 中・下』の2巻刊行に向けて編集作業を行いました。上巻では、主に府中の宿場としての歴史にかかわる史料を掲載しましたが、中・下巻は、府中宿以外の地域での人々の暮らしや生業、寺社、文化活動を中心に取り上げています。そして、この資料編全3巻をもとに、通史編の刊行を見据えた章立てなどの検討も行っています。

また、昨年度に引き続き、旧押立村の金井家文書の資料整理も進めています。金井家は、近世には修験の玉川（泉）院の住職を務め、押立村の村医の家でもありました。調査の過程では、近世から近代にかけての金井家の文書や、府中新宿の門前坊をはじめとする修験関係、また医学・関連の書籍などが伝来していることが明らかになりました。

近現代専門部会

『新 府中市史 近現代 資料編 下』を刊行しました。引き続き今年度は『新 府中市史 近現代 通史編 上』の刊行に向け、原稿の執筆とその編集作業を進めています。

部会会議では通史編上の原稿の進捗状況と共に、来年度刊行予定の通史編下の構成も含めて検討と確認をしました。また、同時に通史編の執筆の過程で必要となった補足的な調査を行い、より充実した内容になるよう進めています。

民俗専門部会

民俗専門部会では大國魂神社や多くの市民の方々のご協力を得て、くらやみ祭の調査をおこないません。昨年と同じく神事のみ祭でしたが、唐櫃渡御の人員増加、露店の出店など、コロナ禍にありつつも変化が確認できました。このような出来事についても貴重な歴史の1ページとして通史編に反映していきたいと考えています。

自然専門部会

令和5年度に予定している通史編の刊行に向けて、刊行までのスケジュールや構成案等の確認を行い、今後の方向性について協議しました。

すでに刊行済の自然分野報告書でまとめられた内容をふまえ、より詳細な調査結果や、最新の研究データを加えて、通史編としてまとめられるよう、各委員がそれぞれの専門分野で取り組んでいます。

また、郷土の森博物館所蔵の自然分野に関する資料調査もあわせて実施しました。

考古・美術工芸専門部会

考古分野では、掲載する資料の再検討をおこないません。それぞれの時代において「製作が優秀」であることを念頭に各時代の多様な種類の作品をピックアップしました。今後は資料の所在確認調査を進めていきます。

彫刻分野、絵画分野では、仏像、掛軸などの調査、撮影を継続しておこなっています。ご所蔵者のご協力と委員の先生方の意欲的な活動によって調査成果を蓄積しつつあります。今後は調査活動と並行して紙面のレイアウト、文字資料などの作成も進めていきます。

また全体会議では来年度刊行に向けて、事務局のスケジュール案をもとに協議しました。

市史編さんの活動記録 (令和4年1月～令和4年6月)

- | | |
|--|--|
| 1月6日 郷土の森博物館調査 (近世)
出初式調査 (民俗) | 4月18日 高安寺調査 (考古・美術工芸)
朝倉染物店調査 (民俗) |
| 1月11日 民俗専門部会打合せ (オンライン) | くらやみ祭関係者調査 (民俗) |
| 1月16日 中世専門部会 | 4月19日 自然専門部会 (オンライン) |
| 1月18日 近世専門部会 (オンライン) | 4月22日 郷土の森博物館調査 (近世) |
| 1月20日 郷土の森博物館調査 (近世) | 4月24日 御本社・一之宮太鼓巡行調査 (民俗)
近世専門部会 (オンライン) |
| 2月3日 大國魂神社節分調査 (民俗)
近現代専門部会 (オンライン併用) | 4月30日
くらやみ祭調査 (民俗) |
| 2月9日 高安寺調査 (考古・美術工芸) | 5月6日 |
| 2月10日 郷土の森博物館調査 (近世)
高安寺秀郷稲荷初午調査 (民俗)
青年会調査 (民俗) | 5月6日 郷土の森博物館調査 (近世)
5月9日 本宿地域民俗調査 (民俗)
5月13日 郷土の森博物館調査 (近世) |
| 2月16日 郷土の森博物館調査 (近世)
本町下組稲荷像調査 (民俗) | 5月20日 大國魂神社宝物殿調査 (近世)
5月22日 原始・古代専門部会 (文献部会)
近世専門部会 (オンライン) |
| 2月18日 西藏院調査(郷土の森博物館)(考古・
美術工芸) | 5月31日 誓願寺調査 (考古・美術工芸) |
| 2月22日 郷土の森博物館調査 (近世)
フォーリス初午調査 (民俗)
中万初午調査 (民俗) | 6月2日 野口酒造店調査 (民俗) |
| 2月23日 本町稲荷神社調査 (考古・美術工
芸) | 6月3日 郷土の森博物館調査 (自然)
6月4日 人生儀礼調査 (民俗)
6月6日 原始・古代専門部会 (考古部会) (オ
ンライン併用) |
| 3月4日 西藏院調査(郷土の森博物館)(考古・
美術工芸) | 6月11日 中世専門部会
大國魂神社御田植祭調査 (民俗)
潮盛講調査 (民俗) |
| 3月8日 考古・美術工芸専門部会 | 6月12日 大國魂神社茅の輪製作調査 (民俗) |
| 3月10日 自治会調査 (近現代) | 6月14日 郷土の森博物館調査 (近世) |
| 3月15日 民俗専門部会打合せ (オンライン) | 6月15日 民俗専門部会打合せ (オンライン) |
| 3月16日 郷土の森博物館調査 (近世) | 6月19日 原始・古代専門部会 (文献部会) |
| 3月17日 近現代専門部会 (オンライン併用) | 6月21日 考古・美術工芸専門部会 |
| 3月24日 本宿地域民俗調査 (民俗) | 6月22日 民俗専門部会 (オンライン) |
| 3月27日 中世専門部会 | 6月25日 善明寺調査 (考古・美術工芸) |
| 3月30日 法音寺調査 (考古・美術工芸) | 6月26日 善明寺調査 (考古・美術工芸) |
| 4月5日 大長寺調査 (考古・美術工芸) | 6月30日 大國魂神社夏越の祓調査 (民俗) |
| 4月6日 大長寺調査 (考古・美術工芸)
民俗専門部会打合せ (オンライン) | |
| 4月11日 豊多屋足袋店調査 (民俗) | |
| 4月12日 蓮宝寺調査 (考古・美術工芸) | |
| 4月13日 民俗専門部会打合せ (オンライン) | |
| 4月14日 郷土の森博物館調査 (近世) | |

前号以降、次の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。(五十音順・敬称略)

青田美鈴、赤羽研三、赤羽茂乃、朝倉邦子、朝日新聞社、荒井浩幸、石川勲、石川裕三、市川閲子、市川紀子、梅の木の家共同作業所、大井正一、大國魂神社、大國魂神社氏子青年崇敬会、大久保謙、大室容一、押見皓介、開作君夫、加藤欣一、加藤節子、金井洋、金子操、かぶらぎみなこ、香山ユリ、熊野神社稻荷神社氏子会、くらのみやみ祭調査でお世話になったすべての皆様、黒田淳子、桑田彰、小池善吉、高安寺、河内進一郎、河内千恵子、木かげ舎、国立国会図書館、後藤恵菜、小林尚子、御本社太鼓講中の皆様、小牧秀幸、是政保育園、近藤祐介、西藏院、酒詰明正、佐々木美香、佐藤政利、産経新聞社、島田吉治、清水廣喜、清水勝、下村盛章、真保元、杉並区立図書館、鈴木夕子、誓願寺、成城大学図書館、善明寺、大長寺、田澤真衣、田中実、種村威史、東京消防庁府中消防署、東京新聞社、東京都立図書館、時田裕平、得居泰司、徳永紗英、都市出版株式会社、中島弘子、長瀬芳美、中万、中村英治、中山利男、ネットワーク市民アーカイブ、野口英一郎、のびろ会、野村忠良、番場・神戸・片町・西馬場・屋敷分の皆様、フォルマ、福井衛、富士見ヶ丘自治会、府中愛児園、府中市郷土の森博物館、府中市社会福祉協議会、府中市立図書館、古橋研一、別所美沙紀、法音寺、ボーイスカウト府中第1団、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ、毎日新聞社、松田信彦、松林真澄、松村彰、松村清隆、松村聡、松村茂夫、松本武雄、松本俊雄、松本良幸、三岡宏、南分倍保育園、三宅元氣、宮崎翔一、武蔵府中熊野神社古墳保存会、メリーランド大学・ゴードン・W・プランゲ文庫、森村唯邦、矢島佐一、矢内清美、山田勝巳、依田武、依田富美子、読売新聞社、蓮宝寺

『新府中市史』既刊紹介

原始・古代	資料編 1 考古資料 1	B 5判	2000円
	資料編 2 文献史料	B 5判	2000円
	資料編 3 考古資料 2	B 5判	2000円
中世	資料編	B 5判	2000円
	資料編別冊 武蔵府中の中世石塔	A 4判	1400円
近世	資料編 上	B 5判	2000円
	古文書調査報告書 四ッ谷 市川千秋家 市川閲子家 市川仁家	A 4判	1000円
近現代	資料編 上	B 5判	2000円
	資料編 中	B 5判	2000円
自然	報告書 府中の自然環境	A 4判	1000円
民俗	報告書 (一) ライフヒストリー ふちゅう	A 4判	1200円
	報告書 (二) 書きとめられた日常	A 4判	1000円
その他	市史研究 武蔵府中を考える第1号～第3号	A 4判	500円
	武蔵府中まちの歴史物語	A 4判	500円

頒布場所 ふるさと府中歴史館3階、郷土の森博物館、
市政情報センター (ル・シーニュ5階)、市民相談室 (市役所1階)、
観光情報センター (大國魂神社交番横)
郵送にてお求めの場合は下記の電話、メールまで送料をお問い合わせください。

府中市史編さんだより 第12号 令和4年(2022)12月1日

編集・発行 府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課市史編さん担当
〒183-0023 東京都府中市宮町3丁目1番地 ふるさと府中歴史館
電話：042-335-4376 電子メールアドレス:bunkazai02@city.fuchu.tokyo.jp
URL:<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/bunka/bunka/shishihensan/>